

みらいん

みやぎの

「みらいん」は、
震災からの復興に向けて
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の
今を結ぶ情報紙です。

第8号



▶丹野社長(写真中央)、長男ご夫妻の真さん(後列右から2番目)と照代さん(前列右端)、大塚さん(前列左から2番目)と従業員の皆さん。震災当時、社長の同級生が営む伊藤畜産(福田町)にお世話になりましたが、今は余震被害で建物を取り壊した伊藤畜産の皆さんが丹野畜産にお世話になっていることから、撮影にも入っていただきました

今月の
ひと

地元で営業を続けながら地域を支える 食肉専門店の社長

バラバラになった地域の人たちの拠り所になればうれしい

和田新田で震災後も営業を続ける有限会社丹野畜産は、昭和2年創業と長い歴史をもち、現在社長を務める丹野真博^{まひろ}さんは3代目になります。

「悩んでいても仕方がない。やるか、やめるかのどっちかしかない！我々はやるよ！」と、震災から2~3日で営業再開を決断。大量のガレキを前に真博さんを強く動かしたのは、「先祖代々からの土地をぶん投げて、ただよそに行けない」という想いと、長男の真さんや家族の理解、そして、勤務歴30年を超える大ベテラン従業員の
大塚さんのサポートがあったからこそ。

またそれは、「小さな1歩でも自分が動き始めたことで他の誰かの起爆剤になれば」と、同じように被害を受けられた方々への真博さんなりの静かな応援でもありました。営業の軸を契約店への納品に切り替えて、店舗営業は毎週金・土曜日に絞りましたが、地域住民がバラバラになったからこそ、地元での店舗営業にもこだわりました。

「皆さんが気軽に寄れる場所、誰かと会えたり、話ができる場所になればうれしい」
真博さん夫妻は扇町1丁目公園仮設住宅、真さん一家は田子の借り上げ民間賃貸住宅と、今は別々に暮らす丹野さん家族3世代が繋がる場所も、和田の丹野畜産なのです。



2012

7月

岡田小学校の米づくり

岡田の将来を担う子どもたちが、いきいきと農業に取り組む姿を追いました



6月20日現在の田んぼの様子

給食の残りを堆肥に

子どもたちが稲作に携わることで、岡田地区の基幹産業である農業の喜びや苦労、良い米を収穫するための努力を体感しようというのが、岡田小学校の米づくりです。特徴は給食の残飯を利用した堆肥を使うなど、化学肥料に頼らない有機栽培をしていることです。総合的な学習として地域と学校が一体となり、12~13年程前にバケツでの米づくりが始まりました。その後は敷地内東側にある1.5haの学校水田に移りました。昨年は震災の影響で作付が出来ませんでした、今年は5年生を中心に少しずつ作業が進んでいます。

地域との関わり

学校米づくりが始まったところからの地域の協力者が、荻袋在住の鈴木英俊さん。有機栽培で農業を営む鈴木さんは青年学級活動、地域有志が集まる三本松会と、足掛け50年も岡田小と地域の取り組みに関わっています。「岡田の明るい将来をつくろう！」との信念を持つ鈴木さんを見込んで、学校から稲作の特別講師にと声が掛かりました。

また、震災後に遠藤和彦前校長が、「子どもたちが、被災して畑が出来なくなった方の為に畑を耕したので使いませんか？」と地域の方を誘ったことがきっかけで、昨年からは新浜地区の方々が学校水田の隣に畑を作っています。学校を舞台に、農業で繋がっている人たちがいることが岡田地区の強みです。

「どのくらい実るか楽しみ」

学校水田の隣の、子どもたちが耕した畑を利用して、いる平山ヒロ子さん。学校からのありがたい申し出を受けてささやかながら農業を続けるヒロ子さんが、コメントを寄せてくれました。

「住んでいた新浜の畑は砂地になっちゃって作付出来ないから、今はうちで食べる分をここで作って楽しんでるの。昨年はここで採れた大根を先生たちに配ったのね。今は日中は暑いから、涼しい時間に来て畑の世話をしてる。子どもたちの米づくりは、地域を知る為の良い授業。どのくらい実るかなあって楽しみだね。」



瀬戸 良平くん

田んぼが温暖かくて気持ち悪かった。うちの田んぼはもっとひんやりしてたけど。美味しい米になって欲しい。将来はわからないけど、農業に対する興味は出てきた。

菅野 美月さん

田植え楽しかった。栄養いっぱいのお米が育つといいな。小さいころからおばあちゃんと一緒にじゃが芋掘り手伝ってるから、将来は農業やることになるかも。おばあちゃんは生協に玉ネギを出荷してるの。

米づくり中の子どもたちの感想

星 美羽さん

農業は良い仕事だと思う。農家がいなければお米は食べられないからありがたい。皆の食べる野菜を作るのは、当たり前のように大変なこと。普段はおじいちゃんと一緒に採りたての野菜を洗ったりしてる。将来は自分の家で育てたい。

鈴木 聖弥くん

農業は楽しいと思った。でも岡田は広いから、田植えをする人は大変だなあと思った。皆の為に美味しいお米に育てて欲しい。

5年1組の担任 伊藤 美穂先生

昨年は津波で流された材木や車があちこちあって、岡田の景色が茶色でした。学校米は美味しいお米です。そんなお米をつくることは、伝統ある岡田の農業を甦らせる一端を担うことに繋がると思えます。「岡田のきれいな景色を取り戻し、岡田を元気にしていくのが自分たちの役目」そういう意識を子どもたちに持たせたいですね。



先生方から

特別講師 鈴木 英俊さん

我々の世代が良い方向に進めば、若い世代、子どもたちも健全に育ってくれて、やがて岡田がより良い地域になるだろうと思ひ、学校のお手伝いをして。食と環境を一緒に勉強して本当に自然を理解し、愛することが出来る農業の後継者が1人でも2人でも出てくれればうれしいね。人間は動植物の生命力を体内に入れて活力にしている。人間の力が及ばないことが沢山あるのが農業。面白いんだよ。



苗は少し成長したようです

育ち具合を観察

田植えから3週間、アメンボや糸とんぼなどの虫の姿がちらほら見受けられます。これからは雑草も生い茂ってきそうで、除去に手間が掛かります。でも、だからこそ秋の収穫が楽しみなのです。すくすく育て、と声を掛けながら日々様子をみていきます。



4年生も田植えのお手伝い

いよいよ田植え

オリエンテーションで学んだ有機肥料をまんべんなく田んぼに撒いた後、しろかきをし、いよいよ子どもたちによる田植えです。縦横に線を引いて、交わる箇所に植え付けしていきます。子どもたちが田んぼに足を踏み入れると「あったけえ!!」「気持ちいいー」とはしゃぐ声が響き渡ります。苗は風通しが良いと病気になりにくいので、広めの間隔で植えていきます。自分の与えられた苗植えが終わり、「苗もつちようだい!!」とおかわりをする子どもが続出。楽しんでいる様子が伝わってきました。



ぬかるみも気持ち良いもんだ



教室で育てた苗。ちよつと細いかな

種を蒔いて苗を育てる

品種はひとめぼれ。土を敷いた育苗箱に種米を敷き詰め、再度土をかぶせます。「大きく背が伸びれば良いというわけじゃない、短くてがっしりしたものが良いんだ」と鈴木さん。その後、種米は5年生の各教室で子どもたちに見守られながら苗に成長しました。窓を開けて風にそよぐ苗を見ていると気持ちが良いものです。

田んぼに堆肥を撒く作業



この育苗箱で育てます



やはり岡田の子。農業に興味深々です

オリエンテーション

4月半ば、特別講師の鈴木さんによるオリエンテーションがあり、今年田んぼの世話をする5年生が自然と微生物が共生する有機農法を学びました。地域で唯一牛を飼う鈴木さん宅の堆肥に、給食の残りやオカラ、米糠などを混ぜた有機肥料を使って育てます。微生物が備え持つ力を活かし、丈夫で強く倒れにくい作物が育つ、という有機肥料の特性に真剣に聞き入る子どもたちでした。

岡田小の米づくり今年も始まっています!!

このコーナーでは、中野・岡田地区出身で現在は借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方々にリー形式でご登場いただきます。



◀(左から)洋子さん、ツルさん、常夫さん。「取材時は仕事で不在だった章、裕人、そして離れて暮らす次男・孝之の家族もお蔭様で元気に過ごしています」

第3回

加藤常夫さんご一家(中野・蒲生)

父親とその親友の思い出の土地

蒲生2丁目に住んでいた加藤常夫さんは、今年6月で91歳になった母親のツルさん、奥様の洋子さん、長男の章さん、三男の裕人さんと、現在は七ヶ浜町汐見台に家族5人で暮らしています。震災前、秋田に家族を残して蒲生の実家から単身赴任していた次男の孝之さんは、若林区の荒井小用地仮設住宅に住んでいます。もともとは中野・港地区に住んでいた加藤さん一家が蒲生へ引っ越して15年が経ちます。1998年に亡くなられた父親の武雄さんと幼なじみの山口義美さん(山口養魚場創始者)は、奥様をそれぞれ連れだつて山形県から裸一貫で蒲生の地を踏み、一緒に養魚場を立ち上げたのでした。

離れていても元の地域の人と繋がりたい

自動販売機設置の仕事をしていた常夫さんは、トラックが1台残っていたこと、また仕事を依頼された群馬県の企業が燃料を調達してきたこともあって、震災から1週間後には仕事を再開。「震災被害による自動販売機撤去作業などの仕事が立て込んだけれど、当時はその忙しさに気が紛れた」と、常夫さんは語ります。洋子さんは、震災前からの勤務先に今年4月復帰でき、自然が大好きなツルさんは、借りている家の庭先で家庭菜園を始めました。キュウリ、トマト、ピーマン、唐辛子、ナス、サヤエンドウ、そして常夫さんがキュウリの苗と間違えて購入したメロンも加わり、夏の収穫が待たれます。「離れてる場所だけど、皆さん遊びに来てください。いつでもいいから寄ってください」一家そろっての呼びかけです。

次回は加藤さんご夫妻から紹介された岡田地区の方にご登場いただく予定です

●岩切で中古住宅を購入し、住んでいる。蒲生で生まれ育って結婚し、親を看取り、過ごしてきた。波の音、潮風、飛行機の音が聞こえないのは寂しい。昨年、蒲生時代の近隣十人程で古峯講に行った。今後、講を続けていけるのかどうかは分からないね。

鈴木隆夫さん

みらいん編集部取材ダイアリー

5月 6月

みらいん編集部は、毎日読者の皆さんと一緒にさまざまな催しや出来事に参加し、取材しています。その一部をご紹介します。

27日(日) 蒲生町内会「お茶、のまねすか!」(しらとり幼稚園)



蒲生町内会として、震災後初めてとなる住民の集いが開かれ、約70名の方が参加しました。今年1月の町内会総会で、住民の皆さんから「集まりたい!」という声がかかったのがきっかけでした。「笑いすぎた!」「来て良かったね」と、笑顔で帰途に着く女性たちや、「今度、畑で会うべ」と、再会を約束する男性たちなど、思い思いに交流を楽しみました。「今後は、若い世代にも参加してもらえるように工夫したい」と、お世話役の片桐勝二さんは期待を込めて話しました。次回は夏ごろの予定。

蒲生町内会として、震災後初めてとなる住民の集いが開かれ、約70名の方が参加しました。今年1月の町内会総会で、住民の皆さんから「集まりたい!」という声がかかったのがきっかけでした。「笑いすぎた!」「来て良かったね」と、笑顔で帰途に着く女性たちや、「今度、畑で会うべ」と、再会を約束する男性たちなど、思い思いに交流を楽しみました。「今後は、若い世代にも参加してもらえるように工夫したい」と、お世話役の片桐勝二さんは期待を込めて話しました。次回は夏ごろの予定。

27日(日) 「アマニ・ヤ・アフリカ」交流会(岡田西町公園仮設住宅集会所)



東アフリカ・ケニアで支援活動を続けるNPO法人「アマニ・ヤ・アフリカ」(仙台市)は、震災復興支援の取組みとして「Twende!!しまうまホープくん」の部品製作をケニアで、その組み立てを岡田西町公園仮設住宅の女性たちが手がける取り組みを行っています。この日は現地から来日した男女2名と約40人の参加者が心温まる時間を共にしました。

東アフリカ・ケニアで支援活動を続けるNPO法人「アマニ・ヤ・アフリカ」(仙台市)は、震災復興支援の取組みとして「Twende!!しまうまホープくん」の部品製作をケニアで、その組み立てを岡田西町公園仮設住宅の女性たちが手がける取り組みを行っています。この日は現地から来日した男女2名と約40人の参加者が心温まる時間を共にしました。

6月2日(土) 中野小学校運動会(中野栄小学校グラウンド)



快晴のもと、催された運動会。児童や保護者、蒲生地域の住民が400人程集まり、子どもたちの競技に声援を送りました。パン食い競争や地域の力自慢が集まった綱引きなど、大人が参加する種目も。最後は伝統の和太鼓と各学年代表のラリーで盛り上がりました。終了後、中野支援隊と民生委員によって焼きそば、フランクフルトが振舞われ、にぎやかに交流を楽しみました。

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいの方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体で話し合われている内容についてお知らせします。

南蒲生復興部

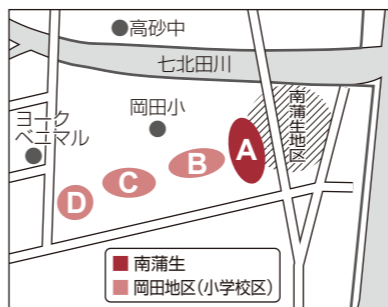
個々の生活再建と南蒲生の復興を迅速に進める為、町内会から権限の委譲を受けて、独自の復興計画を行政に提案しています。

6月6日(水) まちづくり意向調査・個別相談会

内容 ●今後のまちづくりの柱を定めていく上で重要となる、「意向調査アンケート」の設問についての質疑応答

当日の様子 復興部で集団移転候補地として推しているA地区について、「そもそもD地区の希望も多かった」「A地区では津波が心配だ。海からの距離が鍋沼と大して変わらない」との声が挙がりました。代表は「A地区は町内に地権者が多くいて移転の協力を得やすいし、コミュニティも維持できる。また、津波シミュレーションにより安全を確保出来るという結果が出た」と回答しました。その他、「現地再建する上で

のかさ上げ助成は、宅地にのみ適用か」「危険区域と、それを外された区域では支援の差が大きく不満だ」など、アンケート設問に対する質問ではない、出席者の切実な声も聞かれました。代表は「掘りどころが無い中で議論をするより、まずは皆さんのご意見を踏まえて方向付けをしたい。アンケートは秋に再度実施を考えている」と伝えました。



▲岡田地区の全体図に記された移転候補地案のA~D地区

問い合わせ先: 代表 芳賀正 090-4042-9464
事務局会議: 毎週水曜日 18:30~ 岡田西町公園仮設住宅集会所
住民説明報告会: 毎月最終日曜日 岡田会館

新浜復興の会

住民の心の復興、迅速な情報提供、今後も新浜に安心して住み続けられる地域づくり、移転を決断した仲間を尊重する、といった活動方針に沿って運営しています。

6月9日(土) 新浜地区を歩く

内容 ●地図と照らし合わせ、新浜地区の現状を歩いて確認
●上岡田地区の移転候補地を見学

当日の様子 地図を片手に新浜地区を歩き、震災以前と現在を比較。今後どこに何が必要か、まちづくりの材料を模索する為に小雨の降る中、約25人で町内を歩きました。皆さんからは「居久根がずいぶん減った。景観を戻したい」「排水路の流れが無いようだ。整備が要るね」「街道は災害時の避難道路として適しているのか」「避難施設はどこに建てるのが良いか」「防災無線は機能しているのか」「家屋が点在してまとまりがない。菌抜け地の活用は?」「(上岡田は)造成までどのくらいの期間を要するのか」といった意見が出されました。後日、この意見はまとめられて住民の皆さんに届けられます。



▲馬頭観音前で「神様の力が働いたのか、流されなかったね…」と話す皆さん

問い合わせ先: 代表 遠藤芳広 090-2020-4002
世話人会: 毎週土曜日 18:00~ 福田町南1丁目公園仮設住宅集会所

中野小学校区復興対策委員会

中野地区4町内会(港・蒲生・西原・和田)が一丸となり、復興に向けた活動を行っています。

6月3日(日) 第22回中野小学校区復興対策委員会

報告事項 ●仙台市中野学区民体育振興会より、6月2日に行われた中野小学校運動会について、限られた告知方法であったが、予想をはるかに上回る数の地域住民が来場され盛況であったことが報告され、中野小学校が存続するのであれば来年度も継続する意向が示された

- 中野小学校復興委員会コミュニティサイト担当者より、住民有志の方から寄贈された昔の写真データを今後、同サイト上で「なつかしい写真」コーナーとして紹介予定
- 中野コミュニティセンターの解体工事について、センター長および同委員会の了解を得たうえで実施予定であることが、市側から報告された
- 宮城県で港地区に焼却施設を建設中。7月に「火入れ式」を予定
- 復旧・復興(集団移転)について市側から説明と報告
 - 復興公営住宅の入居募集方法について、今年のごろには大よその募集方針を示せる予定

- 6月26日~7月8日まで個別相談会を前回同様3カ所(高砂証明書発行センター、サンピア仙台、市役所本庁舎)で開催
- 移転先地の建ぺい率、容積率は、現在中野地区で適用しているものより厳しくなる予定なので注意してほしい
- 申出書の提出、申出内容の変更期限について、市で整備する移転先地を希望する場合は7月9日まで、区画整理事業で整備する移転先地を希望する場合は秋ごろまで

当日の様子 「移転先ごとの防災集団移転促進事業に関する説明会」資料をもとに市側から説明と報告があり、同委員会側からはいつも以上に積極的な質問が続きました。震災から1年3ヶ月が経とうとしている中であって、なかなか進まない防災集団移転促進事業に対する不安と苛立ちが委員会側からうかがえましたが、「住民と行政と一緒に協働してこそこのまちづくりである」という根幹が感じられる両者の質疑応答となりました。

問い合わせ先: 委員長 高橋寛 022-258-3068
定例会議: 毎月第1、第3日曜日 16:00~ 鶴巻1丁目東公園仮設住宅集会所

被災地レポート

サーフショップM-I-N-G(EMING) (蒲生地区)

復興と共に強まる
サーフィンへの思い

「いつまでも立ち止まっていた前にすすめないからね」と、蒲生地区でサーフショップ「M-I-N-G」を営む高橋誠さん。日焼けした顔にあふれる笑顔が力強く輝きます。

震災発生当日、高橋さんの旧店舗を高さ約3メートルの津波が襲い、二階の屋根に上って助かりました。高橋さんは「震災被害を受け、海の怖さを再確認しました。それでもサーフィンをやめようという気持ちにはなら



店舗の事務室で津波襲来時の水位を指し示す高橋誠さん

なかった」と振り返ります。

現在は、津波で被災したお店から約五十メートル海岸寄りの場所で、新店舗の改装工事中です。取材に伺ったとき、六月半ばの仮オープンを目指し準備に忙しい毎日をご過ごしていらっしゃいました。

高橋さんの一日はサーフィンから始まります。東の空が明るくなり始める午前四時。海で顔を洗った後、二時間ほどサーフィンをしてお店へと戻ります。ホームグラウンドである「仙台新港」を「世界のプロサーファーも驚く世界トップクラスの波がある、サーフィンの聖地だ」と目を輝かせて語ります。

ビーチにかつてのにぎわいを！
国内外の支援が支える普及活動

震災から一年が過ぎ、ビーチはにぎわいを取り戻しつつありますが、「宮城県内のサーファーの数は震災前の三分の一程度に減った」と肩を落として語ります。仙台市近郊で今年六月現在開放されているサーフポ



サーフボードを手にする高橋さん

イントは七ヶ浜町の菖蒲田浜・小豆浜と仙台新港だけで、他は防災広報装置の復旧遅れなどの理由で開放されていません。サーファーを呼び込み、マリンスポーツをもっと普及させるため、高橋さんは奔走しています。

がれきの撤去作業はひとまず終わり、今は仙台サーフショップユニオンという組合組織でお金を出し合っで、水質検査を行っています。こうした活動は国内外のサーファー仲間から届く義援金に支えられています。仙台新港の駐車場は以前の半分程度しか開放されていません。それが、海に来る人の増加を遅らせている一



サーファーが集う「仙台新港」。平日の午後にも愛好家が続々と訪れ、海へと向かっていきます

因にもなっているようです。駐車場が開放されたのも、高橋さんらが全国で二万数千人分もの署名を集め、行政から許可を得たという努力の賜物です。

高橋さんは、「サーフィンの楽しさと怖さを、併せてアピールしていきたい。新店舗がサーファーの集う場所となり、新たにサーフィンを始める人が来てくれるとうれしいです」と、今後の展望を力説します。

サーフィンを始めて三十六年。サーフィンと共に人生を歩んできた高橋さんは、震災からの復興を目指す活動とともに、サーフィンへの情熱を再確認しているようでした。

情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

多重債務無料法律相談会

借金・多重債務問題の相談を、弁護士が無料でお受けします。予約制です(30分間)。

対象 市内在住(仮設住宅にお住まいの方を含む)、在学または在勤している方

時 7月26日(木)、27日(金)10:00~12:00、13:00~16:00

会場 仙台市消費生活センター

申込方法 7月9日(月)から7月20日(金)までに、電話でお申し込みください

問 022-268-7867 仙台市消費生活センター

青葉区一番町4-11-1 141ビル5階(受付9:00~18:00)

仕事に就きたい方をサポートします

仕事探しを総合的にサポートする就労支援相談センター「わっくわあく」が誕生しました。企業と求職者をつなぐことはもちろん、日常生活のサポートや就労前トレーニング、就職後まで継続的に支援します。利用無料。

対象 震災で職を失った方や、能力・経験不足・ブランクなどで就労が難しいと感じている市内の仮設住宅にお住まいの方

支援内容 はじめに面談を行います(要予約)。その後個別のサポート計画を作成し支援を実施します

受付時間 9:30~17:00(土・日曜日、祝日、年末年始は休み)

問 パーソナルサポートセンター就労支援相談センター「わっくわあく」 青葉区二日町6-6 シャンボール青葉2階 予約専用電話/022-395-6323

巡回相談

地域支えあいセンターによる巡回相談です。生活上の困りごとなどの相談に応じています。

対象 主に借り上げ民間賃貸住宅にお住まいの方

巡回相談(7月10日~8月10日) 9:30~15:00

▼田子市民センター 7月13日、20日、8月10日

▼中央市民センター 7月14日、28日

▼東部市民センター 7月18日、8月1日

▼高砂市民センター 7月12日、19日、26日

8月2日、9日

▼福室市民センター 7月24日

▼榴ヶ岡市民センター(7月末で終了) 7月21日

▼岩切市民センター 7月25日

※常設の「支えあいセンターみやぎの」もご利用ください

住所 宮城野区原町3-5-32 コーポゼン1F 022-292-0990

(開所時間/8:30~17:00、相談受付/9:30~15:00、

休/日・月曜日、祝日の翌日、年末年始)

問 022-217-7234 仙台市社会福祉協議会 中核支えあいセンター

-被災地の記憶を想う- 「RE:プロジェクト」記録展

東日本大震災により甚大な被害を受けた地域を対象に、その地域にお住まいだった方のお話から、かつての地域の姿を探ります。これまで被災地で紡がれてきた豊かな記憶を、写真と言葉で振り返る記録展です。入場無料。

対象 どなたでもご覧いただけます

時 開催中(7月27日(金)までの平日9:00~17:00)

所 仙台市役所1階ギャラリーホール

内容 写真・証言パネル約150点の展示など

問 022-301-7405 公益財団法人仙台市市民文化事業団事業課 Eメール: info@sendaicf.jp

健康応援団

健康についての講座や相談を行っています。地域の自主グループなどの運動の日もあります。(日程変更あり。詳しくは問い合わせを)

対象 どなたでも参加できます

時・所 各仮設住宅集会所

▼高砂1丁目公園 7月27日(金)10:00~

8月1日(水)10:00~

8月1日(水)13:15~

7月16日(月・祝)10:00~

8月6日(月)10:00~

7月26日(木)10:00~

8月3日(金)10:00~

7月18日(水)10:00~

7月20日(金)13:30~

8月10日(金)13:30~

7月11日(水)10:00~

8月8日(水)10:00~

問 022-291-2111(内線6782、6784) 宮城野区家庭健康課健康増進係

震災体験をまとめた冊子を配布しています

宮城野区にお住まいの方の震災体験や、復興への声を記録した冊子「FM 3.11」が発行されました。冊子が欲しい方は、下記までお問い合わせください。

問 022-291-2111 宮城野区まちづくり推進課地域活動係

仮設住宅出前講座

高砂市民センターが、宮城野区内の仮設住宅でさまざまな講座を開いています。

対象 対象の仮設住宅にお住まいの方

内容 生け花チャレンジ!

時・所 7月13日(金)10:00~仙台港背後地6号公園

内容 普通救命講習~となりの人のために~

時・所 7月14日(土)10:00~福田町南1丁目公園

7月21日(土)10:00~仙台港背後地6号公園

7月22日(日)10:00~鶴巻1丁目東公園

内容 いっしょに歌いましょう

時・所 7月18日(水)10:00~高砂1丁目公園

内容 お茶を飲みながら歌を聴こう

時・所 8月1日(水)10:00~岡田西町公園

問 022-258-1010 高砂市民センター

「いい加減」は「良い加減」

五月で米寿を迎えた母はダンスが大好きです。女学校時代に体操選手だった母ですが、戦争、引き揚げ、病氣、子育てと運動には無縁でした。ダンスを始めたのは七十歳のころです。体力が少し衰えた最近の口癖は「いい加減」。母が心配で「大丈夫？」と声をかけると「大丈夫、いい加減にするから」と返ってきます。母の「いい加減」は自分のための加減、「良い加減」を意味しています。

「他の人と同じにする」「最後までやる」のが当たり前だった私たちは、途中で止めたり、休んだり、人と違う行動をすることは、いけないことと感じてしまいます。「皆それぞれ」と言われても、人と違う行動をとると、何か悪い事をしているような後ろめたさを感じてしまいます。また、それを行うに移す時にはかなりの勇気が必要です。呪文のように、「いい加減は、良い加減」と唱えながら、「私はいい加減だから」と言い訳し、気兼ねなくさまざまな事を加減できれば、自分の楽しみを長い間続けていけるのではないかと思います。ちょっと緩めて「いい(良い)加減はいかがですか？」

(財)仙台市健康福祉事業団 健康増進センター
健康増進課課長 入江徳子

入江徳子 (いりえ のりこ)

健康運動指導士として震災後、避難所や仮設住宅集会所で指導を行っている健康増進センターのリーダー

クロスワードパズル

出題
石田竹久

こたえ

A	B	C	D
---	---	---	---

1			2		3	4
		5			6	
7						
		9				10
11	12				13	14
			15			
16						17

タテのカギ

- ①仙台七夕の7種類の七夕飾りのうち、なんといっても中心はこれ
- ②「○○を取らない」は、劣らないとか負けないという意味
- ③8月15日に○○○町の荒浜漁港周辺で開催される、「○○○ふるさと夏まつり」
- ④1割の百分の1は、1○○
- ⑤7種類の七夕飾りのうち、学問や書の上達を願うのは?
- ⑥仙台七夕といえば、○○○○四大祭りのひとつ
- ⑦仙台七夕の代表的なイベント。かつては「動く七夕パレード」、現在は「星の○○まつり」
- ⑧絵灯ろうの幻想的な雰囲気の中、夜店などでにぎわいを見せる、丸森町の「○○○幻夜」
- ⑨初心者への教えや手ほどき
- ⑩仙台市のアーケード街などの道路には、七夕飾りを立てる専用の○○が開けられているのがおなじみ

ヨコのカギ

- ①7月16日開催の「塩竈みなと祭り」は、日本三大○○祭りのひとつ
- ②8月1～16日に大崎市三本木地域で開催、42万本が咲き乱れる「○○○○まつり」
- ③仙台七夕のメイン会場には、10㎡以上の○○を使った七夕飾りがたくさん
- ④仙台市を代表するグルメ、牛○○
- ⑤プロ野球で毎年表彰されるベスト○○○。楽天からは昨年、マー君だけが選出されました
- ⑥寄席で最後に登場する出演者
- ⑦6月に「大道芸フェスティバルinとおがった」が開催された○○○町
- ⑧本格的に作る前に、ために作ること
- ⑨七福神のひとり。大きなおなかと、袋を背負っていることが特徴
- ⑩眠気に襲われて、つい大きく口を…
- ⑪この夏もコンサートやスポーツなどでにぎわう、セキスイハイムスーパー○○○○
- ⑫ライオンやヘビなどが持つ、長く鋭い歯

前回のこたえ

A ガ B ン C ツ D キ

でした。

1	カ	2	ミ	3	ア	シ	4	ナ	5	ミ
6	マ	コ	7	ロ	ン	8	ス	ナ		
	ボ		9	マ	イ	10	ゴ	11	ツ	
11	コ	12	テ	ン	13	ホ	14	ツ	キ	
					15	ド	ウ	16	キ	
16	ホ	17	モ	ン	18	ミ	19	ソ		
	ヤ		20	サ	コ	ツ				デ

編集後記

扇町4丁目仮設の集会所を午後には訪問すると、「ただいま!」と子どもたちの元気な声が響きます。自治会が発足して約半年、お住まいの皆さんと一緒に歩む姿が素敵です。(芳賀)

先月お伝えした中野スパローズの情報です。7月14日の仙台市学童野球大会の第4試合、若林区今泉野球場で川平小対山崎少年野球クラブの勝者と対戦。時間は15:00ごろの予定です。(おおが)

●●● お住まいを移転される方へ ●●●

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部
TEL: 022-390-5755
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mwww.or.jp